

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 9月 17日

氏名 (フリガナ)	塚本大志 (ツカモトダイシ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	徳島大学
学年	5年

私が今回このプログラムに参加した動機の一つは、問診や症例プレゼンテーション、および臨床症例に対するディスカッションといった臨床医としての基礎的な能力を、改めてゼロからしっかりと学びたいと思ったことである。その点から振り返れば、このプログラムはまさに理想的なトレーニングの場であったと言える。なぜならば、医学教育の専門家が開発した最も効率的なコンテンツを活用しながら、ハワイ大学の医学生や同じ日本の医学生の参加者を相手に何度も何度も実践的な練習を繰り返し、しかもその成果に対して日米の経験豊富な講師陣から一対一で具体的なフィードバックが得られるという、まさに **History taking** と **Case presentation** のスキルを向上させるためのこれ以上ない充実した環境で学ぶことができたからだ。特に、単なる方法論やそれらのスキルを上達させる道筋を教わるだけでなく、目指すべきゴールやレベルを明確にできたことが何よりの収穫であったと考える。今回は1週間という非常に短い期間であったが、単なる「夏休みの思い出」で終わらせることなく、ここで得られたことを日々の臨床実習でも常に意識し、いつか海外で臨床を実践するときに活かすことができるように努力したい。

また、このプログラムでは、ハワイの複数の医療現場を実際に見学することができ、日米の医療制度、医療水準、教育の内容の違いを比較したり、あるいは将来のキャリアパスを検討したりといった観点からも絶好の機会になった。やはり、と言うべきか、特に米国の医学部の学習環境や学生の能力の高さには正直目を見張るものがあり、自分も負けていられないと刺激になった。もちろん、全国から集まっていた同じ日本の医学生の参加者との交流を通じて、日々の学生生活のことから来るマッチングのこと、あるいは臨床留学に関することまで、有益な情報交換ができたことは言うまでもない。

英語ということに関して言えば、定型化された一通りの臨床業務だけであればなんとかなりそうだ、という一応の手応えらしきものが得られた一方で、その枠を超えて自分の意見を自分の言葉で、且つ適切なタイミングで的確なことを述べることについてはますます自己の実力不足を痛感するばかりで、臨床の能力とともに語学の習得については更に力を入れていきたいと決意を新たにすることになった次第である。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日米医学医療交流財団の皆様、現地でご指導いただきました講師の皆様はじめ、すべての関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。